



細田孝子 (公明党)

細田議員の動画はこちら



質問項目

- ・人口減少対策について
- ・健康福祉行政について
- ・教育行政について

市独自の不妊治療支援制度が必要では

実施に向け、前向きに検討したい

議員 当市では、不妊治療の保険適用拡充後、市独自で行ってきた治療費助成制度を終了し、県が行う特定不妊治療交通費助成のみとなっている。しかし、県内14市中8市が助成制度を継続し支援を行っている状況だ。当市が、妊娠から出産、子育てと切れ目のない手厚い支援体制を構築していることは承知しているが、妊娠を望む方々への支援体制は十分とは言えないのではないかと。釜石で子どもを産み育てたいと願い、不妊治療と向き合っている方々に寄り添い、経済的・

精神的な後押しをすること、は、子育て支援のみならず、人口減少対策の観点からも重要な施策と考える。市独自の支援制度の必要性について市長の見解を伺いたい。

市長 令和4年4月施行の保険適用拡充により、治療に踏み切れなかった方々が、子どもを持ちたいとの望みを叶える環境に一步前進したと認識している。一方で、治療法によっては保険適用回数に制限があったり、先進医療が保険適用外であるなど治療を断念せざるを得ない事例も生じている。支援制度は、子どもを

望む市民の希望を叶える支援とともに、少子化対策及び治療機会の公平性に資する施策として有効であることから、実施に向けて前向きに検討したい。

プレコンセプションケア

議員 健康管理に引き合うため、正しい知識の普及を図るとともに、講演会開催の可能性など、普及啓発活動を検討したいとのことだが具体的な施策を伺う。

保健福祉部長 これまで取り組んできた事業の継続に加え、令和8年度、こども

プレコンセプションケア：性別を問わず、思春期など早い時期から性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めた将来設計を考えながら、日々の生活や健康と向き合う取組のこと。

家庭課に助産師を配置し、思春期・若年層を対象とした健康教育や相談支援の充実を図りたいと考えている。また、助産師が学校に出向き、性や妊娠、将来のライフプランに関する正しい知識の普及を行い、望まない妊娠の予防や将来の妊娠に向けた健康意識の向上を図っていく。

議員 市ホームページを活用し、プレコンの周知啓発を行うてはどうか。

こども家庭課長 子育てポータルサイトを活用した周知の強化を図るとともに、子育て世代以外の方については、助産師配置後に検討していきたい。



思春期講演会を受講する中学生